

since 1938

2018年で創業80周年。
これからも Research, Service, Technology を
追求していきます

アーレスティは、R・S・T (Research) (Service) (Technology) という三つの言葉の統合です。
Rは単に研究・開発だけでなく、より一層お客様のお役に立っていくための創意と探求、Sは製品の品質やアフターサービスだけでなく、お客様とのすべての接点、そしてTはこのRとSを支える知識と技術を示しています。
私たちは常に、より品質の高い Research、Service、Technology を追求し、さまざまな製品を通して、広く社会のお役に立ちたいと願っております。

1938年 6月創業

当社の前身志村アルミニウム株式会社を創業。
アルミニウム合金地金、ダイカスト製品、アルミニウム砂型鑄物の製造を開始。

1943年11月

扶桑軽合金株式会社を設立

1988年
創業50周年を迎える

1988年

初の海外ダイカスト製造拠点アーレスティウイilmingtonをアメリカに設立



社名を扶桑軽合金株式会社より株式会社アーレスティに変更

1997年

金型製作拠点
タイアーレスティダイ設立

2002年

設計拠点
タイアーレスティ
エンジニアリング設立

2003年

中国に広州アーレスティ設立



京都ダイカスト工業株式会社と合併



2005年

金型製作拠点
アーレスティ
ダイモールド広州設立

2007年

インドにアーレスティインディア設立



2006年

メキシコにアーレスティメヒカーナ設立



愛知県豊橋市に技術開発の中枢
テクニカルセンター開設



2014年

東京証券取引所
市場第一部銘柄に指定



2010年

中国に2拠点目となるダイカスト
生産工場、合肥アーレスティ設立



ダイカスト業界全体でのダイカスト生産量は、戦後横這いで1951年に2,102トン(アルミ1,326トン)だったものが、その後飛躍的に増大し1988年には64.7万トン(アルミ58.8万トン)に。現在は104.3万トン(アルミ101.9万トン)となっています。

(単位：億円)

売上高



連結売上高

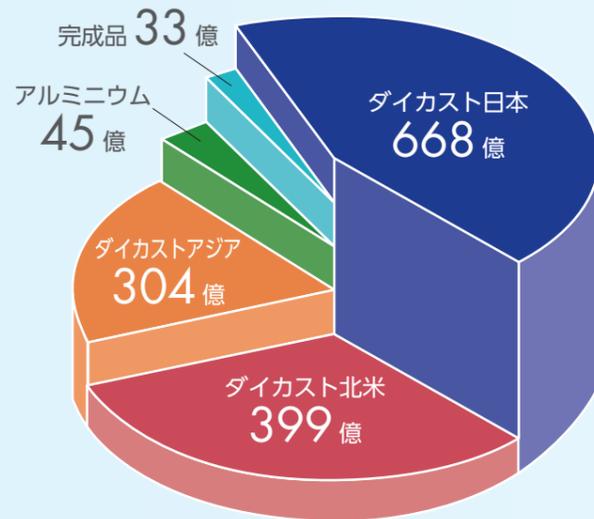
30年間でグループ全体の売上高は倍以上に成長。国内と海外の売上構成比は約5:5となりました。
 売上の9割以上を占めるダイカスト事業では、Tier1として株式会社SUBARU、日産自動車株式会社、本田技研工業株式会社、スズキ株式会社、トヨタ自動車株式会社、三菱自動車工業株式会社、General Motors Company,LLC、Shanghai Volkswagen Automotive Co., Ltd. 等との長年に渡る取引により強固な顧客基盤を構築。欧米自動車メーカーへの取引先拡大に向けた活動も展開しています。

2017年度

1,451 億円

1988年度

545 億円



海外展開

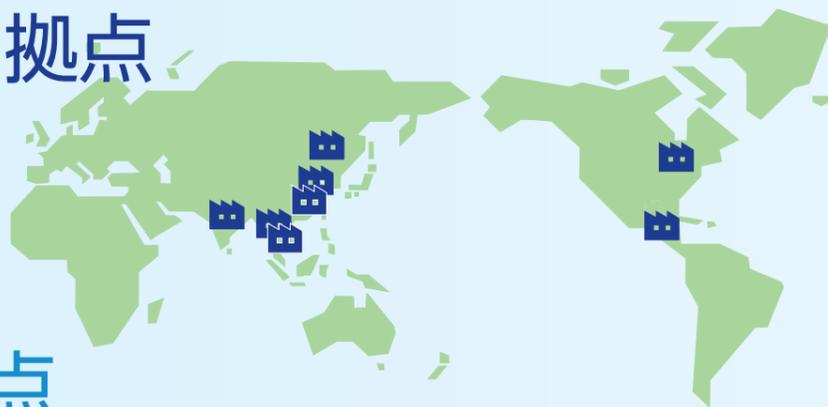
1988年米国オハイオ州に初の海外ダイカスト製造拠点を設立。
 現在は日本の他、米国、メキシコ、中国、インド、タイにグローバル展開しています。
 世界5ヵ国以上で同一品質製品の供給が可能なダイカストメーカーはグローバルで5社程度。当社はその一角を占めています。

2017年度

5 カ国 8 拠点

1988年度

1 カ国 1 拠点



会社名

1988年10月に扶桑軽合金株式会社から株式会社アーレスティに社名を変更。
 「日本」を意味する「扶桑」を掲げ、日本の軽合金を扱う企業から、企業理念に焦点を当てグローバルに成長する株式会社アーレスティへと社名変更。



企業理念

当社の企業理念は創業当時から80年間変わりません。
 企業理念に焦点を当てたアーレスティという社名には、お客様のお役に立つための創意と探求、日々大事にしているお客様との接点、それらを支える知識と技術が示されています。

Research
 Service
 Technology

CONTENTS

株主・投資家の皆様へ	6
アーレスティについて	
■ビジョン・方針の体系	8
■コーポレートガバナンス	8
■10年ビジョンと中期経営計画	9
■連結財務ハイライト	12
事業の概況	
■ダイカスト	13
■アルミニウム合金地金	15
■完成品	16
成長を支える経営資源	
■技術開発の中核テクニカルセンター	17
■ものづくりを支えるひとつづくり	18
■生きいきと働ける職場づくり	19
持続的な成長のために	
■安全衛生の取組み	20
■品質管理活動	21
■環境活動	22
■環境目標と実績	23
■マテリアルフロー	24
■地域社会と共に	25
企業情報	
■拠点情報	26
■会社概要・株式情報	27

2017年度の振り返りと今後の展望



2017年度は、インド工場が10周年を迎えると共に長く懸案だった黒字化を達成する事ができました。特に主要顧客であるマルチスズキの好調な販売が追い風となりました。マルチスズキからは Overall Excellence 賞を頂戴するという高いご評価もいただく事ができました。しかし、アメリカ工場での生産性改善がなかなか進まず、加えて一部の製品の生産終了に伴う売上減少も収益悪化の要因となってしまいました。年初より改善のためのプロジェクトを現地のスタッフに加えて日本からも技術者を派遣し推進しております。栃木工場では、旺盛な需要に対応するための自動化ラインの導入遅れなどにより収益への影響がありましたが、既に自動化設備も整い生産性の改善も進みつつあります。中国では、特に合肥工場の受注増に対応するため鋳造工場の増築が完了しました。加工工場の増築も今秋までに完了する予定で進めております。

企業として持続的な成長を続けていくために、10年ビジョン「信頼を究める 2025」に基づき現在1618中期経営計画を推進しております。安全はもちろんの事、売上げ拡大のために北米と中国にて営業力の強化を進め新しい顧客の獲得も徐々に進んでおります。ものづくりにおいては、品質・生産性の向上を目指して日本、北米、アジアの三地域での定期的な評価会などを通じて全拠点での推進を積極的に行っております。更にISO14001に基づいた環境負荷低減活動では、CO₂の排出量、廃棄物、水資源の使用量の削減活動を進めております。また、地域社会への貢献活動も各拠点にて行い、里山づくりへの参画や地域の清掃活動など積極的に進めております。

私たちの事業環境は、自動車の電動化に伴う内燃機関への影響で大きく変わります。ダイカストの主要製品であるエンジンやトランスミッションは電動化に伴い大きく減少しますが、当面は従来型のエンジンやトランスミッションに加えてハイブリッドやプラグインハイブリッドと言った内燃機関を持つ自動車の需要が増加していくと考えております。世界需要は現在の9千万台余りから1億台を超えるのもここ数年と言われています。それらの需要増加に伴いダイカストを用いるエンジン・トランスミッションの需要も増加します。更に、環境対応や電動化に伴う軽量化ニーズによるアルミダイカスト需要の増加も期待できます。アルミダイカストは、その軽量で生産性、リサイクル性に優れている点から電動化の中でも、エンジンやトランスミッションとは異なる市場の成長も見込まれております。2018年に80周年を迎え、更なる100周年に向けて私たちは、その需要変化に対応するための準備を着実に進めております。

皆様のご理解、ご支援を引き続きお願いいたします。

代表取締役社長
最高執行責任者 高橋 新

経営基本方針

常に生きいきと活動し
理論と実験と
創意と工夫を尊重して
品質のすぐれた製品と
行き届いたサービスを提供しよう

アーレスティについて

ビジョン・方針の体系

社員一人ひとりの日常管理活動の推進が、中期経営計画、10年ビジョン、経営基本方針の実現へとつながり、アーレスティが目指す豊かな社会を実現すると考えます。



コーポレートガバナンス

コーポレートガバナンス体制

当社では監査等委員会設置会社への移行に際して、経営効率の向上を目的に業務執行取締役等への権限移譲を行い、取締役会では経営に関する重要事項を中心に決定をする体制としました。2017年度には取締役会（書面決議の1回を除く）を14回開催し、中期経営計画等の経営戦略、コーポレートガバナンス、グループ経営管理などの議案に対して、社外取締役からも意見をもらい活発な議論を行っております。また当社グループの業務の適正を確保するため、「経営計画管理規程」及び「関係会社管理規程」に従ってグループの経営管理を行い、月1回定例開催している工場長会議等でのモニタリングを行っております。

取締役 (監査等委員である取締役を除く)	6名
監査等委員である取締役	5名 (内、社外取締役4名)

役員報酬制度の見直し

当社は、10年ビジョンと中期経営計画の実現に向けて、①当社の企業価値の持続的な向上を図るインセンティブを与えること、②株主の皆様との一層の価値共有を進めること、③中長期的な業績目標との連動性を一層高めること、の3点を目的として役員報酬体系の見直しを行い、譲渡制限付株式報酬制度を導入いたしました。本制度は、一定期間継続して当社の取締役を務めることを条件とする「勤務継続型譲渡制限

付株式」、当社の中長期的な業績目標達成を条件とする「業績連動型譲渡制限付株式」により構成されております。譲渡制限付株式の一部を、中期経営計画の達成状況や業績等に基づき報酬額を決定する仕組みとすることで、より中長期的な観点での業績向上や株主の皆様との価値共有を図ってまいります。

	業績連動型譲渡制限付株式	勤務継続型譲渡制限付株式
譲渡制限期間	原則中期経営計画にあわせ3年（2018年度は1年）	30年
譲渡制限解除条件	勤務条件 業績条件	勤務条件

10年ビジョンと中期経営計画

事業環境

■ 自動車のグローバルでの生産台数増加とアウトソーシングの流れ

世界の自動車生産は中国・新興国を中心に増加が見込まれ、2017年は約9,700万台となりました。2020年で1億台を超え、今後もマーケットは拡大していくと予測されています（IHS調査）。

旺盛な需要が続く中で、自動車メーカーは燃費規制対応、EV、HV・PHV、自動運転車など様々な面での投資が必要となっており、設備投資の相対的な優先順位から、ダイカスト製品の生産はアウトソーシングの方向に進んでいると考えられます。

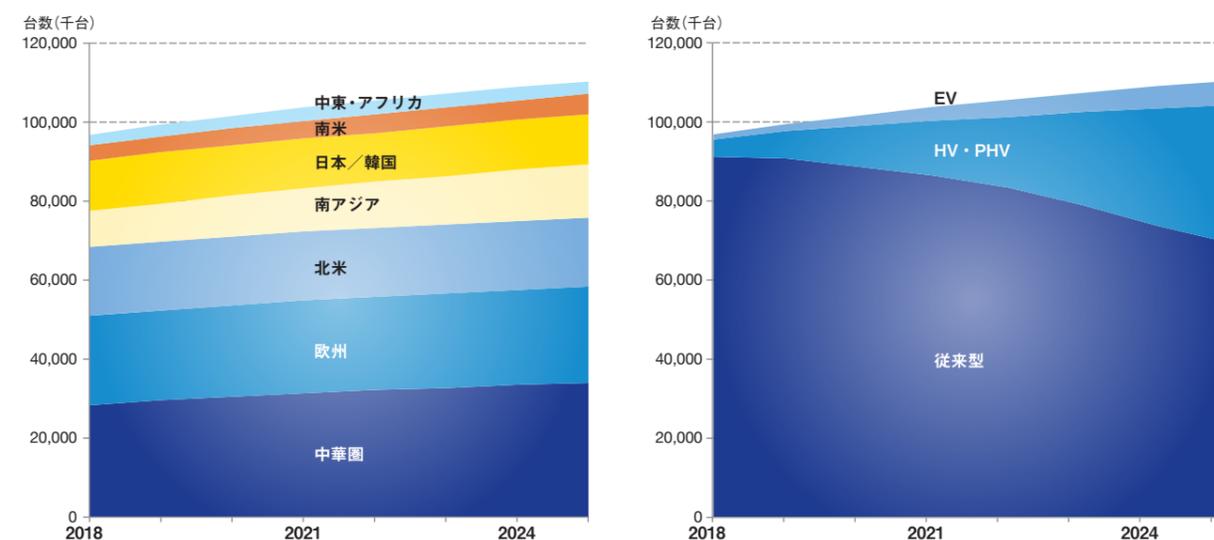
■ 燃費規制の強化による軽量化ニーズの拡大

自動車の燃費規制が益々厳しくなる一方、安全性や快適性向上の観点からの保安部品や多様な車載部品により、自動車の重量は増加傾向にあります。軽量化ニーズへの対応として、小型化や車体構造の変更の他、軽量化材料への転換が進んでいます。軽量で設計自由度の高いアルミダイカストがこの軽量化に貢献する機会は大きいと考えられます。

■ EV、HV・PHV等への対応

IHSの見通しでは、2030年ごろまではHVやPHVなどを含む内燃系エンジン搭載車も引き続き需要の拡大が見込まれており、エンジンやミッション系部品生産への影響は限定的と見られます。

しかしながら将来的なEV市場拡大への対応に向けて、当社ではボディ系部品の専門チームを2017年1月に立ち上げ、将来の当社の貢献分野拡大に向けた準備を進めています。



世界ライトビークル生産台数予測 ©2018 IHS Inc. All rights reserved

アーレスティについて

10年ビジョンと中期経営計画

当社は新興国における自動車需要の増加や先進国での自動車の軽量化、環境対応によるグローバルなアルミダイカスト需要の拡大に応え、中長期に企業価値を高めていくため、2015年度から10年ビジョン「信頼を究めよう2025」をスタートしています。「お客様からの信頼 No.1」「グローバルで車の軽量化に役立つ」

「売上高 2000 億円 + α 」をありたい姿とし、お客様からの信頼を究めつつ、安定して持続的に成長していくための基本戦略を事業戦略、機能別戦略、マネジメントの取組みとして定めています。



1618 中期経営計画の基本方針

1618 中期経営計画の推進にあたっては、製造、技術、営業、管理の各部門のメンバーからなる推進グループによる方針評価会を国内 4 回（四半期毎）、海外 11 回（北米（米・墨合同 1 回、個別各 2 回）、中国、インドで各 3 回）開催し、グローバルで方針推進活動を進めてきました。

1618 中期経営計画の最終年度となる 2018 年度は、計画達成を目指し、ものづくりを究め進化させ、アーレスティプロダクションウェイを確立することを基本方針に、5つの柱に対し従業員一丸となって全力で取り組んでいきます。

1 大型高難易度製品の顧客評価 No.1 を実現する

1618 中期経営計画に沿って、営業活動をグローバルで推進してきました。2017 年度は営業体制の強化を図り、既存の日系メーカーのみならず、新規顧客や海外の現地顧客への営業活動を積極的に進め、成果につながっています。



当社のダイカスト生産の 9 割強を占める自動車部品の中でも、エンジンブロック、トランスミッションケース、クラッチハウジングといった部品は、顧客からの要求機能も高く、形状が大きく複雑なため、難易度の高い製品といえます。特にエンジンブロックは、エンジン自動車の根幹とも言えるので、自動車メーカーでの内製割合が高い製品です。そのような中で、2017 年度は特に中国において、地場の大手自動車メーカー数社からエンジンブロックの新規受注を獲得することができました。それに伴い、中国・合肥工場の増築を行っております。このように、大型高難易度製品の新規受注を頂けるということは、当社を信頼し、評価いただいている証しだと考えております。より多くのお客様の信頼を獲得し、更なる事業の拡大に向け引き続き活動を推進してまいります。

取締役常務執行役員 営業本部長 **金田 尚之**

2 ものづくりを究める

グローバルでの業務改革・標準化を目指して、①グローバル基準でものづくりプロセスを確立、②信頼を究める品質保証の確立、③技術のロードマップの実現、④徹底した製造原価低減活動を柱に推進してきました。

2017 年度は、鑄造・加工工程においてターゲット製品に関しての最適な製造条件の検証を進め、技術のロードマップに

基づいた課題の解決に努めました。また、全工場での生産性と品質を確保していくため、インフラや作業標準の整備、保守メンテナンスの向上に努め、成果が出ています。引き続きグローバルでしゅみを統一し、高いレベルでの同質のものづくりと品質を実現するための施策を進めていきます。

3 生きいきと活動する会社を築く

ものづくりを究めるには、常に高いレベルを目指したひとつづくりが欠かせないと考えています。社員の行動基準である RST Way を実践できる企業風土づくりと、ものづくりを究める人材育成によるアーレスティのひとつづくりを進めています。グローバルで全社員が同水準の教育を受講できるよう、2017

年度には、グローバル RST ラーニングを海外のダイカスト生産工場 5 拠点で実施し、国内だけでなく海外の人材の教育活動も積極的に進めました。また、コミュニケーション委員会を各拠点に設置し、懇談会等を通じた双方向コミュニケーションを図ることで従業員のモチベーション向上に努めています。

4 収益力を高める

中長期的な事業発展・企業成長のための財務体質と経営基盤の強化のため、ものづくりを究める施策による製造原価低減や生産性向上とあわせ、収益管理の質を高め収益力の改善を進めています。2017 年度には、グループ会社間の資金調達や配当により余剰資金を有効活用し、財務力の向上にも努め

ました。北米については 2018 年 1 月より改善プロジェクトをスタートし、組織・管理体制の強化、作業員・技術員の教育等を実施。生産性の改善、安定を図り収益力の増強を進めています。

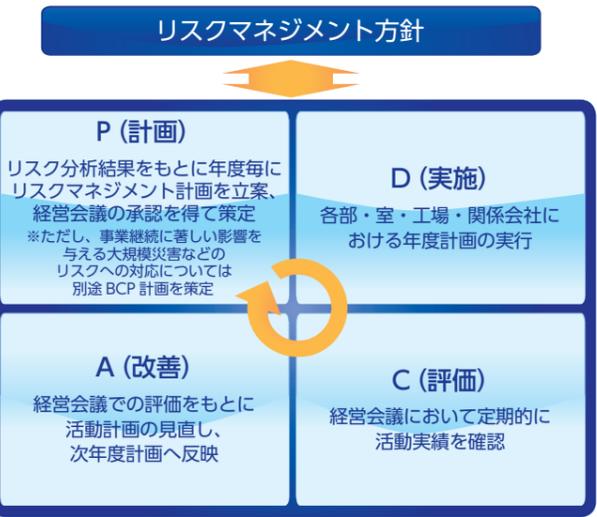
5 リスク管理を徹底する

BCP 訓練、リスクマネジメントなどにより想定リスクに対する事業継続力を高める努力を続けています。

2017 年度は、国内工場に加えて海外工場でも BCP 訓練を実施しました。訓練実施工場だけではなく他工場からも参加することで、各工場の課題点を洗い出し、BCP の改善を進めています。

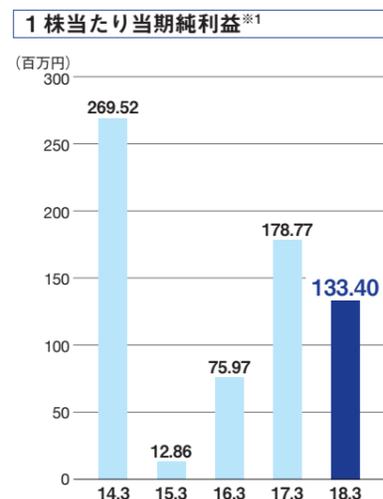
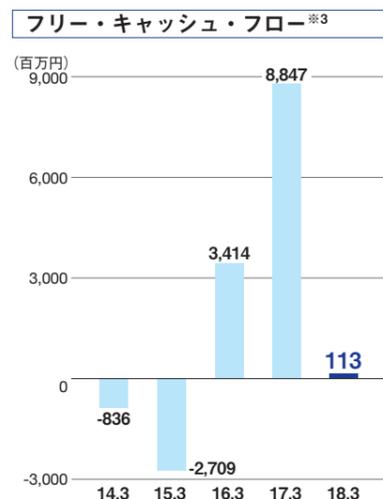
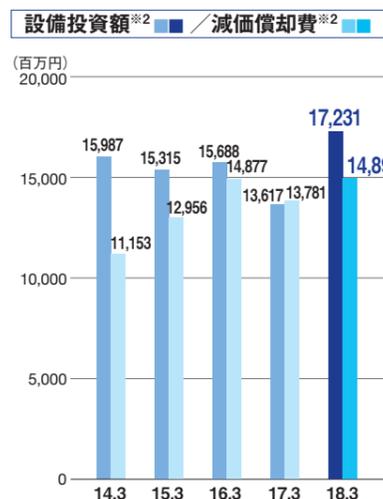
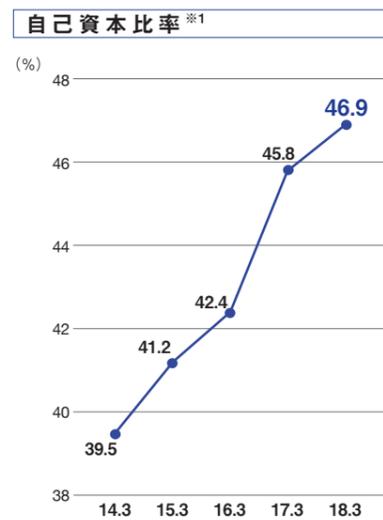
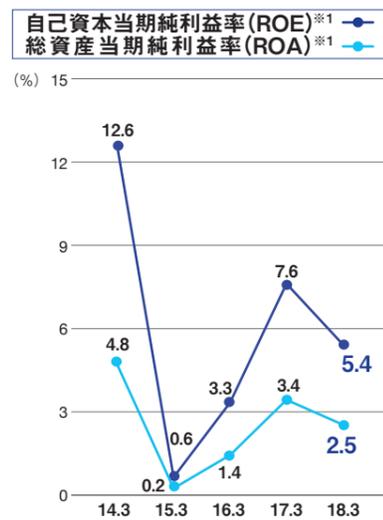
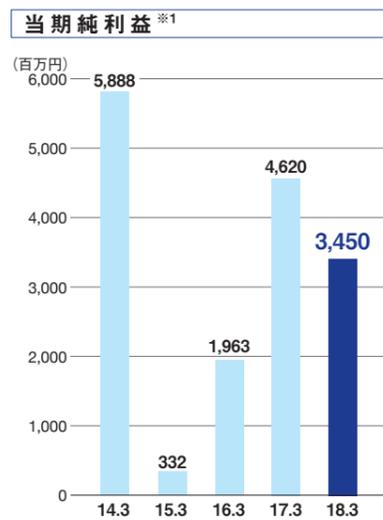
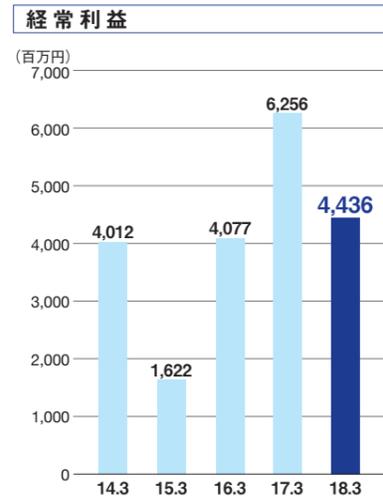
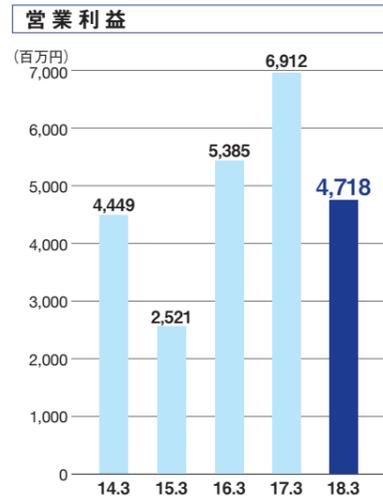
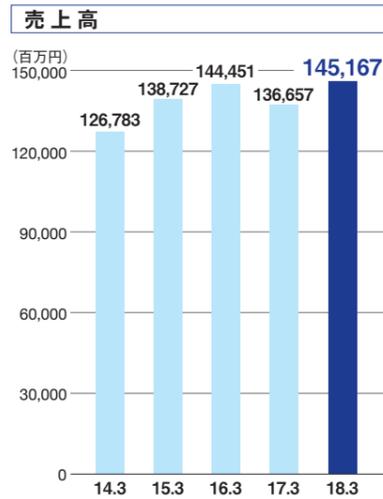


BCP 訓練の様子



リスクマネジメント活動サイクル

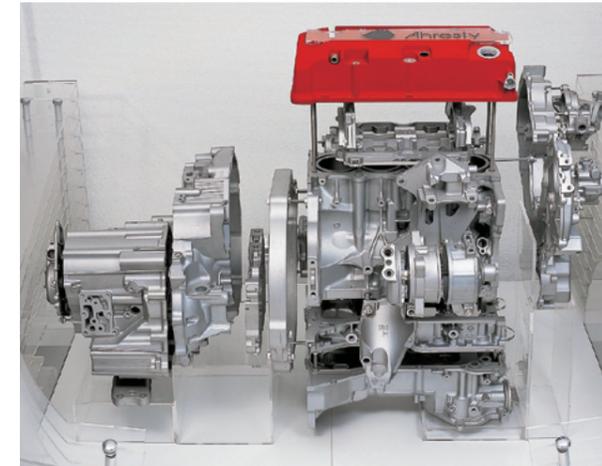
連結財務ハイライト



※1 過年度決算に関し会計上の誤謬が判明したため、当該誤謬の訂正後の数値を記載しています。 ※2 金額は金型を含みます。
 ※3 フリー・キャッシュ・フロー= (営業活動によるキャッシュ・フロー) - (投資活動によるキャッシュ・フロー)

ダイカスト

多様化するニーズに応え強固な顧客基盤を構築
グローバルで事業を拡大



アールスティの主力事業はアルミニウムダイカストです。自動車産業の発展とともにグローバルで事業規模を拡大し、売上を伸ばしてきました。

多様化するニーズに応える一方で、ダイカストのネック技術の原因解明を行ってきた結果、他社に先駆けて新技術を開発。従来ダイカストでできなかったものづくりを可能にし、品質や生産効率を向上させるなど、ダイカスト業界での地位を確立しています。

今後も、アルミニウムダイカストにおいて、軽量化等を通して自動車産業に貢献できるよう、さらなる技術革新を目指していきます。

主要なダイカスト製品

アールスティが生産するダイカスト製品の9割以上は四輪自動車の部品です。その他に、オートバイ、発電機や船外機部品なども製造しています。

- アルミダイカスト製品
 - ・ エンジン用 ・ トランスミッション用
 - ・ 足回り部品 など
- 金型鋳物製品 (グラビティダイカスト)
- その他
 - ・ ダイカスト用金型
 - ・ ダイカスト周辺設備
 - ・ 中古ダイカストマシン再生販売

ダイカスト製品の特徴

ダイカストのダイ (Die) は金型、キャスト (Cast) は鋳物を意味しますが、一般的な意味のダイカストは、金型を用いて高速、高圧鋳造した鋳物やその製法を表します。ダイカスト製品の特徴は、生産性の高さ寸法精度に優れており、表面が美しいことです。表面が滑らかな製品を製造することができるため、その後の加工処理が少なく済む利点があります。ダイカストのそのような特徴から複雑な形状で大量生産が必要な自動車部品などに多く用いられています。

私たちは、ダイカストのリーディングカンパニーです。

アールスティは、自動車のエンジン、トランスミッションなどを中心に、様々なダイカスト製品を製造しています。近年では、自動車の軽量化ニーズに伴い、ボディ・足回り関連部品のダイカスト化を積極的に推進しています。

エンジン《自動車の心臓部》

自動車の心臓部であるエンジンには、たくさんのダイカスト製品が使われています。自動車の高機能化に伴うエンジン部品の高品質化、軽量化の求めに応じて、シリンダーヘッドカバー、カムブラケット、シリンダーブロック、ラダーフレーム、オイルパン、チェーンケースなどのエンジン本体部品の他、各種ブラケット類などの部品がダイカストで作られています。

トランスミッション《動力伝達の要》

トランスミッションはエンジンで作られた動力を扱いやすい回転数に変換する機構です。大型、薄肉、複雑な形状に加え、高強度であるとともに寸法精度や外観品質が厳しく、トランスミッションケース、クラッチケース、ハウジングコンバーターをはじめ、オートマチックトランスミッションの油圧回路の制御に欠かせないバルブボディなどがダイカストで作られています。

足回り《走行安定性や走り心地に影響》

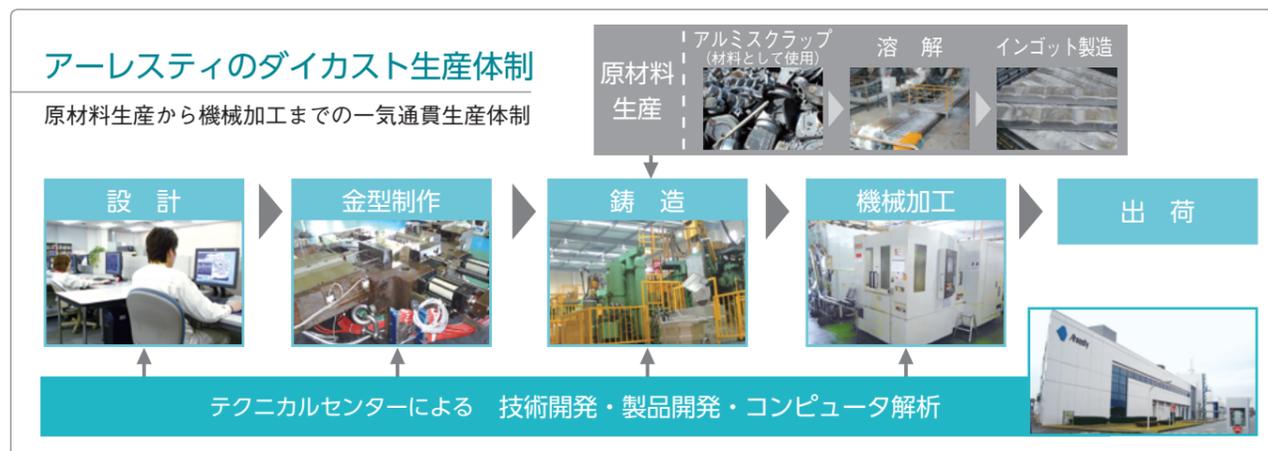
足回り部品の軽量化は走行安定性や乗り心地に大きな影響を与えるため、高級車を中心に急速に普及し始めています。足回り部品には剛性、強度、靱性、耐食性などが求められるため、NI法などの新しいダイカスト工法で対応しています。この工法で作られるダイカスト製品としてはデフメンバー、ステアリングナックルなどの部品があります。

ボディ《軽量化に貢献》

当社独自のHIGF法は、これまでの減圧ダイカスト法に比べキャビティ内の真空度を高めることで、より高品質な大型肉薄製品への適用が可能な工法です。HIGF法を活用したボディ部品のアルミニウムダイカスト化により、軽量化に貢献できると考えています。



事業の概況



今期の業績報告

【ダイカスト日本】

主要顧客である自動車メーカーの生産量が、熊本地震等の影響を受けた2016年と比較し増加。また、北米、アジア市場向けを中心とした輸出も堅調であったため、当社の受注量は増加しました。受注量増に加えアルミ地金市況上昇により、売上高は66,818百万円(前期比6.0%増)となりました。一方、主に栃木工場での製造コスト削減が販売価格低下に比べ小幅にとどまっていることや燃料費等の増加の影響により、セグメント利益は1,458百万円(前期比42.1%減)となりました。

【ダイカスト北米】

主要顧客である自動車メーカーにおいて、ここ数年続いた好調な販売に減速感が生じています。米国工場においては、この市場の減速に加えエンジンのダウンサイジングにより受注量が減少する中で生産性改善に遅れが生じ、減益要因となっています。2018年1月から改善プロジェクト活動を開始し、米国工場の早期生産性回復に努めております。一方のメキシコでは、新規部品の立ち上がり及び量産本格化により受注量が増加していますが、労働者分配金(PTU)の支払い増加等が収益の押し下げ要因となっています。この結果、北米セグメントでの売上高は39,937百万円(前期比2.2%減)となり、セグメント利益は291百万円(前期比86.5%減)となりました。

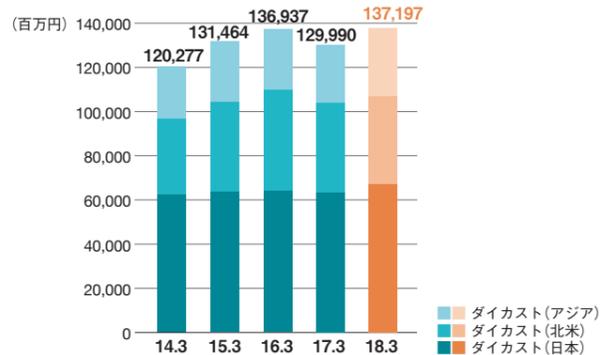
来期への展望

今後の経済見通しは、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかな回復基調が続くと予想される一方、米国の金融政策正常化の影響、中国を始めアジア新興国等の経済の先行き、政策に関する不確実性による影響等、不透明な状況が続くことが予想されます。

【ダイカストアジア】

中国では、主要顧客である日系自動車メーカーにおいて、減税幅の縮小により小型乗用車の販売には鈍化が見られますが、一方でSUVの販売が引き続き拡大しており、関係する部品の受注量は好調に推移しています。またインドでは、自動車市場が好調を維持している中で、当社の受注量も増加しました。受注増の影響に加え、主に中国でのアルミ地金市況上昇を受け、アジアでの売上高は30,442百万円(前期比16.5%増)、セグメント利益は2,378百万円(前期比35.2%増)となりました。

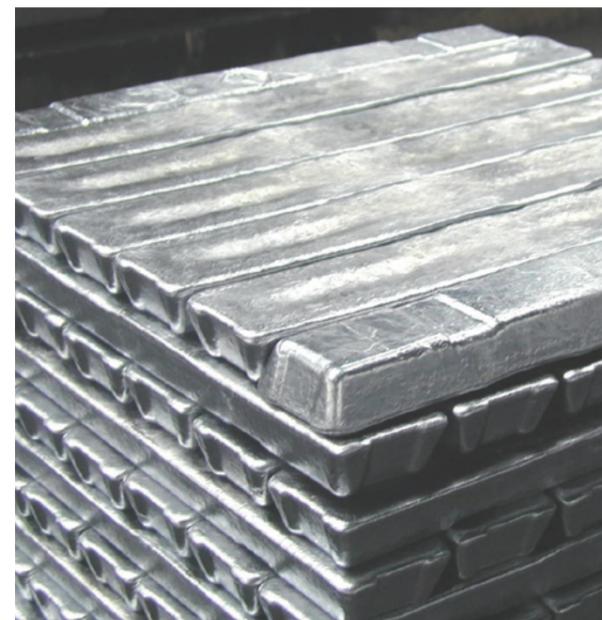
売上高推移



このような状況の中、当社グループは、長期的な経営の方向性を示した「アーレスティ10年ビジョン」の「信頼を究めよう 2025」を基本方針に、ものづくりを究め進化させ、アーレスティプロダクションウェイを確立することを基本とした施策展開により持続的成長を目指してまいります。

アルミニウム合金地金

業界トップクラスの設備とノウハウで、多様な材料から高品質の製品を生産

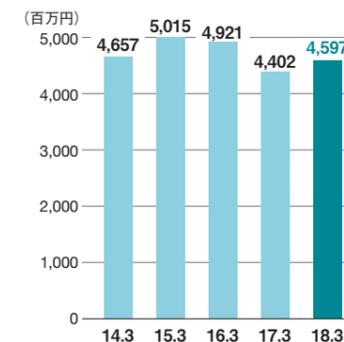


アーレスティのアルミニウム合金地金は、ダイカスト向け(AD系)合金や鋳物向け(AC系)合金の他、特殊用途向けのアルミニウム合金地金など、約40種類の地金を生産しています。全国から集まるアルミニウム缶、サッシ、自動車の解体スクラップなどの他に、アルミニウム新塊や添加材などの原材料をもとにアルミニウム合金地金を生産しており、アーレスティが持つ分析機器やノウハウを活用し、厳しい管理のもと、品質の優れた工業用地金を提供しています。アルミニウム事業を行うアーレスティ熊谷工場は、1958年業界初の日本工業規格(JIS)表示許可工場、1997年全国初めて改正民法におけるアルミニウム缶リサイクル施設として認定を受け、アルミニウム合金地金の現有月産能力は3,000トンです。生産された地金は日本各地へと出荷され、顧客から高い信頼を得ています。

今期の業績報告

販売量は2016年度に比べ減少しましたが、アルミ地金市況の影響により売上高は4,597百万円(前期比4.4%増)となりました。収益面においては原価低減活動を推進しておりますが、原材料上昇と燃料費上昇の影響により213百万円(前期比22.2%減)のセグメント利益となりました。

売上高推移



来期への展望

2017年度も自動車需要増による圧延品、鋳造品、ダイカスト品需要の増加など好調な国内需要を反映し、当社におきましてもほぼ計画通りの売り上げ重量となりました。一方で為替相場の変動や中国の環境規制の影響からの市況変動が大きく、国内市況へも度々影響が出ました。割安感のある輸入塊の増加や国内市況の変動への対応など、当事業を取り巻く環境は厳しさを増しています。その様な環境下においても、一層の原価低減と生産性向上活動を推進していくことで、為替や市況に左右されないリッチな体質の強化を図ってまいります。

事業の概況

完成品

各方面で導入が進むフリーアクセスフロア
クリーンルーム向けでは、国内シェア No.1 を獲得



1962年、アーレスティは日本で最初のアリミニウムダイカスト製のフリーアクセスフロアパネル「モバフロア」を開発しました。フリーアクセスフロアとは、配線・配管を床下に納める二重床システムのことです。一般的にはオフィスや病院などに幅広く利用されていますが、当社では特に半導体生産工場などのクリーンルームやデータセンター、コンピューター用フロアパネルに注力しており、クリーンルーム向けでは、国内No.1となるシェア70%以上を誇っています。

アルミダイカスト専門メーカーの自負・高い技術力を背景に、最軽量フリーアクセスフロアを商品化。アルミダイカスト単一材なので100%リサイクルであり、軽量化により輸送に伴うCO₂削減効果、建築躯体への重量負担減による長寿命化に貢献、期待ができます。

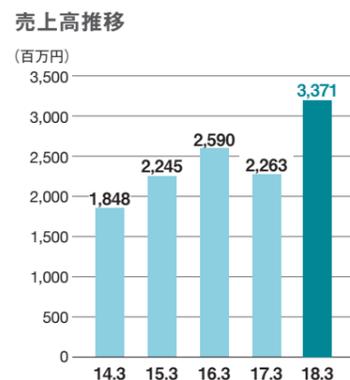


モバフロア L60N

モバフロア L60S

今期の業績報告

主要販売先である半導体関連企業のクリーンルーム物件や通信会社のデータセンター向け物件等の受注が増加し、売上高は3,371百万円(前期比49.0%増)となりました。収益面においては、主に受注増による増益効果等により、セグメント利益は392百万円(前期比151.6%増)となりました。



来期への展望

2017年度の日本国内のアルミ製フリーアクセスフロア市場は前年度に比べ43%増加しました。当社はその市場増加とほぼ近似した49%の売上増を確保することが出来ました。2018年度の市場は前年よりも減少する見通しであり、市場競争は益々激化することが予想される為、更に企業努力を重ね競争力を強化してまいります。海外においては中国を中心に拡販が進みつつあり、今後も顧客ニーズを把握し更なる販路拡大を目指します。

成長を支える経営資源

技術開発の中核テクニカルセンター



テクニカルセンターでは、多様化する車社会において、アルミダイカストを通じて世の中・顧客に新しい価値を創造・提供するために、新材料・工法の研究・開発に取り組んでいます。また、世界各生産拠点での同一品質・生産性の実現のために、生産基盤の整備と良品生産条件(OPCC)追究の推進活動も行っています。ものづくりを追究する一方、それらの活動を支える人づくり・人材育成にも力を入れています。日本人の得意とする「カイゼン」の教育を推し進め、日本のみでなく、グローバルで展開中です。今後もこのテクニカルセンターの機能を高めていくことで、当社の持続的成長を牽引してまいります。

取締役常務執行役員 製造本部長 伊藤 純二



テクニカルセンター



グローバルでの同一品質生産をサポート

ゲストイン	各種 CAE	生技性提案	素材設計	金型方案・構造設計
金型設計	機械加工工程設計	製品立上支援	技術標準管理	IT 管理
工法・材料開発	ダイカスト基礎研究	試験鑄造	製品評価・試験	知的財産業務

良品生産条件 (OPCC[※]) 追究活動

※ OPCC...Optimal Process Condition Control の頭文字をとった造語

アーレスティでは各種の製造パラメータと品質との因果関係を捉えて管理することにより、検査による品質保証から脱却し、不良を作らない製造工程の確立を目指す OPCC 活動に取り組んでいます。

【鑄造工程での OPCC イメージ】



生産基盤整備の一環として IoT を活用

経済産業省のホームページでも紹介されたように、アーレスティ東松山工場では IoT を活用したトレーサビリティシステムによる品質保証を実施しています。製品ごとに二次元コードと個体識別番号を鑄造工程で刻印し、各工程でのコードの読み取りにより、鑄造データ(金型温度、加圧波形等)と各工程の品質データを個別管理。不良品の製造工程を分析することで良品製造条件を特定し、ある製品では不良率を70分の1まで削減しています。アーレスティでは、工場単独ではなくグループ横断的に、IoTによる作業支援、品質管理、工程改善などによる製造現場の最適化が図れるよう、2017年3月にIoT研究会を発足し活動を推進しています。



二次元コード読み取りの様子

成長を支える経営資源

ものづくりを支えるひとづくり

IoTの進展と自動化が進む生産現場においても、技術と品質を求めていくためには、常に高いレベルを目指したひとづくりが欠かせないとアーレスティは考えています。「共通教育」と各種の専門技術を学ぶ「専門教育」に分け、国内外全拠点同一水準で体系的に教育を受けられる体制を整えています。

グローバル RST ラーニング

創業時から蓄積してきたものづくりのノウハウを伝承する「RST 学園」を2016年度より海外展開し、グローバルで全社員が同一水準の教育を受講できる教育体系を整備しました。2017年度、海外では延べ2,654名が受講。必要な教育を誰でも受講でき、標準の大切さを演習で体験する教育を推奨しています。



Global Kaizen Meeting

Global Kaizen Meeting は、グローバル全拠点で技術力・技術水準を向上させることを目的に開催しています。年に一度、技術者が一堂に会し、事例発表やグループディスカッションを通じて、技術交流・相互研鑽を図りながら問題の改善点を探り、今後に向けた取り組みを重ねています。2017年度は10月に『鑄造 OPCC の確立』をテーマに開催し、国内外全拠点より57名の技術者が参加しました。



事例発表の様子



グループディスカッション

G/E トレーナー育成

製造工程は、常に改善の積み重ねによって、品質と生産性を向上することができます。製造工程のリーダーは、G/E トレーナーとして現状を分析し、問題点を具体的に解決する能力、部下を指導する能力を保持

できるように育成しています。G トレーナーは3年、E トレーナーは1年の育成期間を要し、2013年度の開始より、国内外合わせて164人がG/E トレーナーとして認定され、2018年度末までには累計392人が認定される見込みです。

ものづくり塾

ものづくり塾は、次世代のアーレスティを担う幹部候補生を育成する場として、2012年に開始しました。約1年間に及ぶ入塾期間の間に、技術的な知識や技能だけでなく、幹部候補生としての経営の視点を持ちながら、課題や問題点を発見し、判断・解決を図っていくことでものづくりの本質を追究

します。現在ものづくり塾の卒業生は、国内外の工場やテクニカルセンターの経営幹部やリーダーとして活躍し、アーレスティのものづくりを次世代に伝えています。

生きいきと働ける職場づくり



株主・投資家、従業員、仕入先・委託先、顧客、そして社会。全てのステークホルダーからの信頼を獲得し、そして高めていくには、従業員一人ひとりが自身の強みを発揮し、弱みを補いながらチームとして最大の力を発揮することが欠かせません。そのためには、アーレスティ経営基本方針の冒頭にもあるように「常に生きいきと活動」できる職場環境が大切だと考えております。RST Wayの推進を図り、従業員一人ひとりが仕事を通じて成長し、自分の仕事に対して誇りを持って生きいきと働ける職場づくりを常に目指しています。これらが当たり前実践される企業文化を醸成して参ります。

取締役常務執行役員 管理本部長 **高橋 新一**

RST Wayの推進

アーレスティの経営基本方針を従業員一人ひとりが実現するための考え方や行動の基本となるのがRST Wayの5つの行動基準「誠実」「率先」「スピード」「成長」「挑戦」です。日常の業務でWayを体現し、模範となる行動をとった従業員にはRST Way Prize Cardが与えられます。2017年度のRST Way Prize Card年間発行枚数は3200枚以上にもなり、企業文化醸成の一助となっています。

アーレスティが実現すべきWayのあり方

誠実	お客様及びすべての関係する皆様のために、真面目にひたむきに努力します。多様な意見・考え・価値観を素直に聴いて理解に努めます。
率先	自ら考え、成功に向けて積極的に行動します。一人ひとりが率先して行動し、大きな改善につなげます。
スピード	社会のニーズやグローバル市場の変化をとらえ、迅速に行動します。常に仕事のやり方や技術の改善・改革に努めます。
成長	目標に向けて常に進化します。探究心をもって自分を磨き、期待に応えます。
挑戦	高い目標の達成に向けて果敢に取り組みます。失敗を恐れず理論と実験、創意と工夫を尊重して挑戦を続けます。

アーレスティハンドブックのリニューアル

アーレスティハンドブックには、RST Wayをはじめ、ビジョン、アーレスティグループ行動規範、コンプライアンス基本方針などの基本方針等、社員が理解しておくべき内容が1冊にまとめられています。2017年度は安全・品質・環境の章を新たに加え、更に充実した内容にリニューアルしました。ハンドブックは、日本語、英語、中国語、スペイン語、ヒンディー語、タイ語の6カ国語で発行し、各国の社員に配布しています。勤務中は常に携帯し、企業倫理の徹底と遵守に努めています。



コミュニケーション委員会活動

2016年度よりコミュニケーション委員会を各拠点に設置し、大小様々な行事を企画、実施し、従業員間のコミュニケーション向上とモチベーションアップにつながっています。2017年度は平均で8割近い参加率となりました。



持続的な成長のために

安全衛生の取組み

アーレスティでは、安全最優先の原則のもと生産活動を行っています。様々な安全衛生活動を行い、全社をあげて安全な職場を目指しています。

アーレスティ安全理念

よく口にされる“安全第一”という言葉の内容を明文化し、その風土づくりを徹底していくため、グローバルで「アーレスティ安全理念」を掲げ、活動をしています。

- アーレスティ 安全理念**
1. 安全は、全ての作業に優先する
 2. 安全は、いかなる業務よりも重要である
 3. 安全は、常に生産効率よりも優先される
 4. 安全は、職場の整理・整頓・清掃から始まる
 5. 安全を優先できない人は、アーレスティには不要である

- アーレスティグループ 安全スローガン**
- 「非常作業に危険あり！
KY やって決め事守り
みんなで作ろうゼロ災職場！」

- 2017 年度重点活動実績**
- 非常作業による災害を無くすため、KY 能力の向上、非常作業におけるルール遵守（声だし KY 実施、非常作業表示板の活用）徹底活動
 - 管理職・監督者・安全管理者による非常作業の現場観察と指導能力の向上
 - 安全モデルマシン設置による、設備・機械の更なる安全化
 - 「安全人間」づくりの推進

安全体感教育

アーレスティでは、「安全体感教育」として、職場に存在する様々な危険を具体的に示し、「見て、聞いて、感じる」という人間の基本的な働きを通じて直感的な理解を促し、危険感受性を高めるための教育を推進しています。

過去、アーレスティで発生した重篤な災害や潜在するリスクなどから科目を設定し、各事業所で安全体感教育が進められており、今後も科目の拡充等を行い教育の更なる充実を図っていく予定です。



安全人間評価

管理監督者並びに作業者がそれぞれに応じた安全に関する知識を持ち、日々それを実践して安全に日常業務を遂行できる「安全人間」をつくっていく活動です。2018 年度からは、より具体的な各作業ルールを評価項目とし、理解度テストやアンケートによる事業所全体としての弱点分析にも利用していく予定です。

18 年度 安全人間評価項目例

非常作業
標準に基づき教えられていない作業、標準のない作業を行う時は「止める・呼ぶ・待つ」を行っている。
動力源を切って設備に立ち入っている。
操作電源キーを携帯するか、あるいは所定の場所に保管して設備内に立ち入っている。ロックアウトして設備内に立ち入っている。
タグもしくは個人 KY カードを指定場所に貼り付けて設備に立ち入っている。
作業前に声だし KY を実施している。

安全衛生監査 (ASES)

全事業所の安全衛生を向上させるために安全衛生監査 (ASES) を年に 1 回実施しています。

ASES とは「Ahresty Safety Evaluation System」の略で、生産現場で守るべき事項の遵守状況を定量的に評価する監査として 2013 年から継続して行っています。これにより生産現場の不安全箇所・不安全行動の有無を監査し、より安全な作業環境作りを進めています。

品質管理活動



アーレスティは、日本、アメリカ、メキシコ、中国、インド、タイで事業を展開しています。アーレスティの作る製品は高い品質と生産性でグローバル全拠点どこに行っても変わらない。そう言っていただくことは、ものづくりをしている我々にとって最高の幸せです。その実現に向け、Ahresty Standards の構築に取り組み、グローバルでの仕組みや標準の統一を進めています。一方、高い品質と生産性には日々現場での改善が欠かせません。仕組みの整備と現場での絶え間ない改善活動、その両軸で「グローバルで同一品質 同一生産性の実現」に向け努力を続けてまいります。

常務執行役員
品質保証本部長 兼 品質管理部長 **荒井 弘司**

QC サークル活動

1971 年、東京・浜松で第 1 回社内大会が行われてから 2017 年度で 70 回目の開催となりました。2015 年度からは海外拠点も加わり、国内外の全 21 事業所が参加するグローバル QC サークル大会として開催し、お互いの活動を切磋琢磨する場となっています。QC サークル活動により問題意識や改善意識の向上をはかり、QC 手法を身につけることで個人の業務のスキル UP に繋がっています。

また、近年では国内外の外部大会にも盛んに出場し、賞を受けるなどの成果を上げています。



品質気づき提案

ものづくりには現場での日々の改善が欠かせません。改善の源となるのが、日々の気づきです。特に品質に焦点を当て、日々の“気づき力”を高めることを目的に、アーレスティでは 2012 年度から「品質気づき提案」を実施し、品質の維持、向上につなげています。毎年 11 月の品質月間に、気づき、提案し、改善が実施された「品質気づき提案」の中から優れた事例が表彰されます。2017 年度は 1,393 件の個人提案と 149 件のグループ提案があり、5 名、1 グループの優秀提案が表彰されました。

2017 年度 主な受賞・表彰

いすゞ自動車株式会社より品質達成賞を受賞

3月

アーレスティ インディアが Maruti Suzuki India Limited より Overall Excellence を受賞

5月

合肥アーレスティが瀋陽航天三菱自動車エンジン製造株式会社より品質貢献賞を受賞

12月

トヨタ自動車株式会社より品質管理活動・原価改善活動・VA 活動の 3 部門で感謝状授与

2月

本田技研工業株式会社より 2018 年 優良感謝賞 (原価部門) を受賞

4月

アーレスティインディアが Toyota Kirloskar Auto Parts Pvt. Ltd. より品質賞の他、納入目標達成賞、ZERO PPM 賞を受賞

7月

グローバル補完による安定供給への貢献が評価されジャスコ株式会社よりグローバル特別賞を受賞

11月

アーレスティメヒカーナが Nissan Mexicana, S.A. de C.V. より BEST QUALITY SUPPLIER を受賞

日野自動車株式会社より品質管理優良賞、原価改善優良賞を受賞

3月

合肥アーレスティが豊田汽車 (常熟) 零部件有限公司より 2017 年度部品原価努力賞を受賞

株式会社豊田自動車織機より 2017 年度特別賞 (品質) を受賞

持続的な成長のために

環境活動

公害防止活動や省エネ省資源への取組みに加え、アーレスティ独自の環境に関する啓蒙活動やコミュニケーション活動も行っています。

環境方針

1. 私たちは私たちの開発、生産、販売、廃棄の活動が地球環境と深く関連し影響を与えていることを明確にとらえ、環境目的・目標・実施計画を定め、それらを必要に応じて見直し、環境保全活動の継続的な改善をはかります。
 2. 私たちは国・地方公共団体・利害関係者などの環境規制、規則、協定などの要求事項を順守し、さらに技術的・経済的に可能な範囲で自主基準を定め、一層の環境保全に取組みます。
 3. 私たちは特に次の項目について優先的に活動し、環境保全と汚染予防に取組みます。
 - ① 大気汚染、水質汚濁に関する施設・工程の管理・改善を徹底します。
 - ② 廃棄物の再資源化率 100%を維持します。
 - ③ 廃棄物総排出量の減量、アルミリサイクル事業の拡大を推進し、循環型社会へ貢献します。
 4. 私たちは従業員一人ひとりの環境保護意識の向上をはかるため、教育・啓蒙活動を継続的に行ないます。
 5. 私たちは良き企業市民として、地域社会の環境保全に努め、地域との共生をはかります。
- ～私たちはこの環境方針を社内外を問わずに公表いたします～
- 2005年4月18日 改2
株式会社 アーレスティ 取締役社長 高橋 新

Ahresty eco ライセンス

社員の環境の知識向上を図るため、「Ahresty eco ライセンス」という、環境に関する独自の社内試験制度を設けています。年に数回の試験を実施し、現在まで8割を超える社員が合格し、日々環境意識の高い活動を行っています。



アーレスティ・グリーン大会

アーレスティ・グリーン大会とは、社内における環境改善の活動事例報告会です。今回で第15回の開催となりました。ここで報告された効果的な活動は、他の事業所でも水平展開されており、コミュニケーションの場としても有効な行事となっています。



事業所	テーマ内容
東海工場	含浸洗浄廃液の全量水処理化による廃棄物量の削減
アーレスティブリテック	エネルギー使用量削減の取り組み
東松山工場	T6熱処理炉の自動停止化によるエネルギー使用量の削減
熊谷工場	溶解炉の重油原単位の改善
アーレスティ栃木	省エネ・省資源活動
アーレスティダイモールド栃木	金型VA提案と不良削減活動によるCO ₂ 削減
アーレスティ山形	水処理装置への突発流入ゼロ
アーレスティ熊本	5t前炉、原単位改善活動報告

積極的な自然環境保護への貢献

2007年から埼玉県越生町に「アーレスティの森」を持ち、東松山工場・熊谷工場、東京本社共同で植栽や間伐等の森林整備活動を行っています。地域の清掃活動や、生物多様性を意識した里山づくりなど、多岐にわたる活動を推進しており、2017年度は全社で80以上の企画が実施されました。



環境目標と実績

2017年度環境目標と実績

国内目標と実績

環境区分	中期目標	2017年度目標	2017年度結果	評価*	2018年度目標
大気 水質 騒音等	大気汚染、水質汚濁、騒音公害などの環境問題を発生させない	社外流出、苦情の不適合をゼロにする。	社外流出、苦情の不適合はゼロであった。	5	社外流出、苦情の不適合をゼロにする。
廃棄物	廃棄物の総量削減を進める	最終処分量（埋め立て）をゼロにし、再資源化率 100%にする。（鉱滓等のレンガくず及び耐火物、処理後の残渣を除く）また、総廃棄物原単位を、前年度比 1%以上削減する。	再資源化率については、対象 11 事業所中、10 事業所で目標達成となった。廃棄物原単位については、対象 11 事業所中、8 事業所で目標達成となった。	4	最終処分量（埋め立て）をゼロにし、再資源化率 100%にする。（鉱滓等のレンガくず及び耐火物、処理後の残渣を除く）また、総廃棄物原単位を、前年度比 1%以上削減する。
省エネ 省資源	地球温暖化対策として、CO ₂ 総量削減を行う	CO ₂ 原単位を 2013 年度比 4%削減（すでに達成している事業所は前年度 1%削減とする）。もしくは、2013 年度以降の最も良い結果だった年度から 1%削減。電気需要平準化評価原単位を 2014 年度比 3%削減する。	主要 7 工場延べ実績では達成（831.kg-CO ₂ /t）に対して 824kg-CO ₂ /t）。事業所別では、対象 11 事業所中、6 事業所が目標達成となった。*電力係数は固定値で評価。	3	CO ₂ 原単位を 2014 年度比 4%削減（すでに達成している事業所は前年度 1%削減とする）。もしくは、全社事務局と協議の上決定する。電気需要平準化評価原単位を 2014 年度比 4%削減する。
	工程に使用する水の使用量を削減する	水使用量原単位を削減する。 *目標値は各事業所設定による。	対象の 6 事業所中、3 事業所で目標を達成した。	3	水使用量原単位を削減する。 *目標値は各事業所設定による。
その他	環境に対する意識を高める	各事業所において正社員の 70% 以上を「Ahresty eco ライセンス」合格者とする。すでに達成している事業所は、事業所個別目標を設定する。	全事業所で目標を達成。累計として、合格者数 1,735 名（82.3%）となった。	5	各事業所において正社員の 77% 以上を「Ahresty eco ライセンス」合格者とする。すでに達成している事業所は、事業所個別目標を設定する。
	社会貢献活動を推進する	環境に関する社会貢献活動について、各事業所ごとに、開催回数目標値を設定する。	全事業所で目標を達成。全社で 80 以上の企画が開催された。	5	環境に関する社会貢献活動について、各事業所ごとに、開催回数目標値を設定する。

グローバルでの環境管理のため、海外工場においても、CO₂ 削減、水使用量の削減など、国内同様の対象区分で環境目標を策定しています。

経年変化について

CO₂ は活動の削減効果を評価するため、CO₂ 換算係数を過去から固定値で算出しています。活動の成果もあり、CO₂ 排出量原単位、水使用量を昨年度から削減しています。



燃料や電気の使用を CO₂ 量に換算した値です。なお、折れ線グラフで電力会社公表の換算係数で算出した CO₂ 量を併記しています。



CO₂ 排出量を生産重量で割った値で、1t の生産にいくらの CO₂ を排出したかがわかります。



アーレスティが生産した製品の重量です。エネルギー使用量は生産重量に比例します。



鉄やアルミを除く、事業所からのすべての排出物です。



上水及び地下水の使用量です。2011 年度より水資源の節減も目標に加えています。

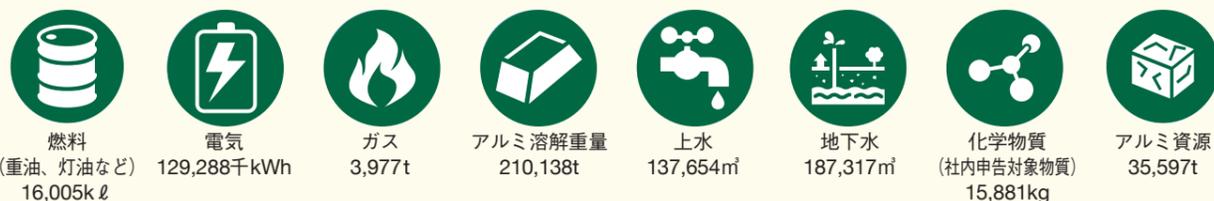
*国内主要 6 工場の数値

持続的な成長のために

マテリアルフロー

様々なエネルギー、資材を使い、必要なコストをかけて製品を生産しています。

INPUT (使用)



対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日
(単位：千円)

分類・主な取り組みの内容		環境保全コスト		
		投資額	費用額	
事業所エリア内コスト				
内 訳	公害防止コスト	排水処理設備管理・更新・設備導入、 排ガス処理及び集塵装置の維持管理、騒音対策	26,316	74,913
	地球環境保全コスト	省エネ活動（電気、重油）、省エネ設備導入、工場緑化、 維持電力監視モニター	8,901	42,883
	資源循環コスト	水の循環利用、廃棄物・資源ごみの処理（分別・処分）、再生油の使用	—	235,262
小 計		35,217	353,058	
上・下流コスト	グリーン購入額	—	29,365	
管理活動コスト	環境委員会、内部監査、ばい煙・ダイオキシン・排ガス・騒音測定、 社内教育訓練、ISO14001 認証維持	—	8,851	
研究開発コスト	合金協会（環境保全テーマ）、地金中環境負荷物質調査	—	6	
社会活動コスト	工場見学の受入れ、地域清掃活動、近隣コミュニケーション活動、 ボランティア活動、NPO 寄付	—	226	
環境損傷対応コスト	汚染負荷量賦課金	—	1,913	
小 計		0	40,361	
【収入】上・下流コスト	有価物売却額（鉄屑、廃プラ、シェル、廃油、廃紙などの買取総額）	0	191,588	
合 計		35,217	393,419	

※投資は設備等固定資産になるもの、その他は費用として算出
※電力のCO₂排出係数は、最新の電力会社公表値（2016年度値）を使用

OUTPUT (生産・排出)



地域社会と共に

アーレスティは、地域社会に根ざした工場を目指して日々努力すると共に、自らが率先して社会へ貢献できる人材を育てています。地域社会と共にアーレスティは発展していきます。

近隣コミュニケーション

アーレスティの工場では、ダイカストの製造段階や運搬車両によって発生する音等の発生源対策を進める一方、工場に隣接する住宅や自治会、企業などを訪問し、本レポートを活用した定期的なコミュニケーションに努めています。また、地域社会の安全活動の一環として防犯パトロールへの参加なども行っています。

グローバルな企業市民の一員として

アーレスティは、1988年の米国法人設立以降、5か国にグローバル生産拠点を展開しています。グローバルでも地域社会に根ざした企業として、積極的に地域との交流を行っています。



Kids Safety Day

アメリカのアーレスティウイリントンでは、地域の子供たちへの安全啓発のために Kids Safety Day を毎年開催しています。従業員ボランティアスタッフが運営を行い、近隣住民含め2017年は600名以上が参加。折り紙教室や輪投げ、子供用クライミングウォール等の出し物や、安全啓発の各種デモンストレーションが行われました。また、生産部品が搭載された車両の展示も実施。Kids Safety Day は、地域との交流だけでなく、従業員家族を工場へ招待する良い機会にもなっています。

企業情報

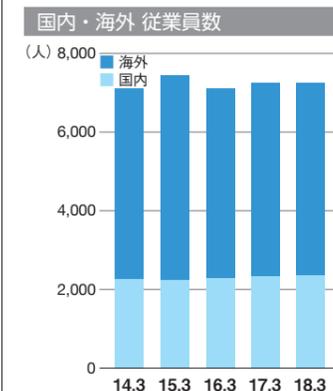
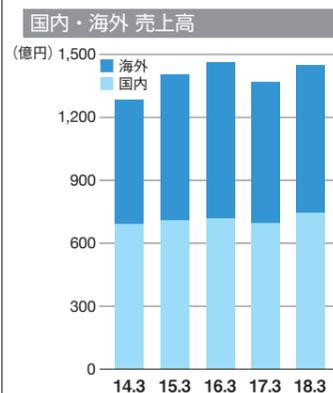
拠点情報

顧客のニーズに対応し、積極的にグローバル展開を推進しています。

主な海外事業所



売上高/従業員数推移



主な国内事業所



会社概要・株式情報

会社概要

会社概要 (2018年3月31日現在)
商号: 株式会社アレスティ
資本金: 69億3,909万円
設立: 1943年11月2日
従業員数: 【連結】7,268名
【単独】928名

取締役

- (2018年6月20日現在)
- 代表取締役社長 最高執行責任者: 高橋 新
 - 取締役常務執行役員: 伊藤 純二
 - 取締役常務執行役員: 高橋 新一
 - 取締役常務執行役員: 蒲生 新市
 - 取締役常務執行役員: 金田 尚之
 - 取締役執行役員: 野中 賢一
 - 取締役(監査等委員): 石丸 博
 - 社外取締役(監査等委員): 早乙女唯夫
 - 社外取締役(監査等委員): 志藤 昭彦
 - 社外取締役(監査等委員): 塩澤 修平
 - 社外取締役(監査等委員): 早乙女雅人

株式情報

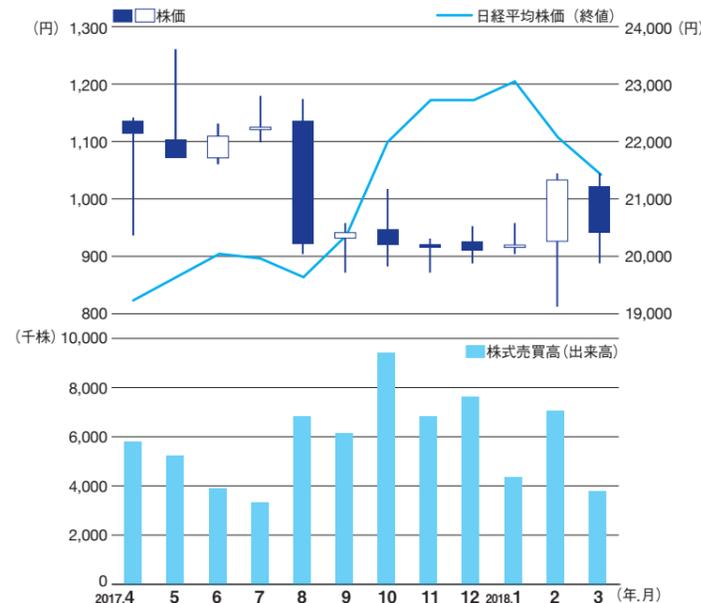
株式数および株主数
発行可能株式総数: 60,000,000株
発行済株式の総数: 26,027,720株
株主数: 5,904名

所有者別株式分布状況

個人・その他	金融機関	外国法人等	その他の法人
33.1%	26.0%	22.0%	15.4%

金融商品取引業者 3.5%

株価・株式売買高の推移



あゆみ

- 1938年6月: 当社の前身志村アルミニウム株式会社創立。アルミニウム合金地金、ダイカスト製品、アルミニウム砂型鋳物の製造を開始
- 1943年11月: 扶桑軽合金株式会社を設立、ダイカスト製品、アルミニウム砂型鋳物の製造を開始
- 1960年3月: 株式会社日本精密金型製作所(現:株式会社アレスティダイモールド浜松)を設立。扶桑軽合金株式会社浜松工場操業開始
- 1961年10月: 扶桑軽合金株式会社の株式を東京証券取引所第2部に上場
- 1962年4月: 東海精工株式会社(現:株式会社アレスティプリテック)設立
- 1963年3月: 京都ダイカスト工業株式会社豊橋工場(現:東海工場)操業開始
- 1971年3月: 栃木フソー株式会社(現:株式会社アレスティ栃木)を設立
- 1972年3月: 株式会社ダイテック(現:株式会社アレスティダイモールド熊本)を設立
- 1976年9月: 熊本フソー株式会社(現:株式会社アレスティ熊本)を設立
- 1981年3月: 株式会社ダイテック熊本工場(現:株式会社アレスティダイモールド熊本)操業開始
- 1984年7月: 扶桑軽合金株式会社熊谷工場操業開始
- 1985年5月: パスカ販売株式会社(現:株式会社アレスティテクノサービス)を設立
- 1988年5月: Ahresty Wilmington Corporationを設立。社名を扶桑軽合金株式会社より株式会社アレスティに変更
- 1989年10月: 株式会社アレスティ'89年度デミング賞実施賞(中小企業賞)受賞
- 1997年2月: Thai Ahresty Die Co., Ltd.を設立
- 3月: 株式会社アレスティ ISO9001(建材)認証取得
株式会社アレスティ ISO9002(ダイカスト・アルミニウム)認証取得
- 2001年3月: 株式会社アレスティ ISO14001認証取得
- 2002年7月: Thai Ahresty Engineering Co., Ltd.を設立
- 2003年8月: 広州阿雷斯堤汽车配件有限公司を設立
- 10月: 京都ダイカスト工業株式会社と株式会社アレスティが合併
- 11月: 第20回素形材産業技術表彰にて「経済産業大臣賞」受賞
- 2005年3月: 阿雷斯堤精密模具(広州)有限公司を設立
- 4月: パスカ工業株式会社と菅原精密工業株式会社が合併し、社名を株式会社アレスティ山形に変更
- 6月: 本社を東京都中野区中央に移転
- 2006年6月: Ahresty Mexicana, S.A. de C.V.を設立
- 9月: テクニカルセンター開設
- 2007年1月: Ahresty India Private Limitedを設立
- 2010年8月: 合肥阿雷斯堤汽车配件有限公司を設立
- 2011年4月: 浜松工場と豊橋工場を統合し、東海工場として再編
- 2013年10月: 本店・本社を愛知県豊橋市に移転(旧本社を東京本社に)
- 2014年2月: 東京本社を東京都中野区本町に移転
- 3月: 東京証券取引所市場第2部から同市場第1部銘柄に指定
- 2017年11月: 国内ダイカスト工場7拠点でIATF16949認証取得(東海工場、東松山工場、株式会社アレスティ栃木、株式会社アレスティ熊本、株式会社アレスティ山形、株式会社アレスティプリテック、本社工場、株式会社アレスティプリテック 豊橋工場)

Casting Our Eyes on the Future

視線はまっすぐ未来へ

タグライン「Casting Our Eyes on the Future」は、その社名に込められた企業理念を実現すべく、アールスティで働く者すべての視線が、常にお客様、地球環境、そしてアールスティ自身の未来へ向けられ、Research（研究開発）、Service（サービス）、Technology（技術）において常に主導的リーダーとして前進しようという企業姿勢を具現化したものです。なお、「Casting」は「投げかける」という意味の他に、当社の主要事業である「Die Casting」の意味も込めています。

株式会社 **アールスティ**

東京本社

東京都中野区本町 2-46-1

中野坂上サンブライトツイン 5F

TEL 03-6369-8660 FAX 03-5358-5331

URL <https://www.ahresty.co.jp>

発行 2018年6月

